

本編は20編と対になった「王のための詩編」であり、王の「心の願いをかなえ、王（あなた）の計らいを実現させてくださるよう」（20：5）の祈りへの神の応答に対する感謝と賛美です。王の「願いを聞き入れて命を得させ/生涯の日々を世々限りなく加えられた」（21：5）。「御力」（2、14）「御救いのゆえに」（2節）、「御救いによって」、そして「喜び」（2、7）、「祝福」（4、7）が印象的です。

1. 主なる神の「御救い」

主なる神は王（私たち）を救って下さる。救い（ヨシュア）は「狭まり」が窮地を表すように、危機の中で「広がり」を与えられ、助けられることです。敵対する者からの解放です。自分の力や知恵ではなく、一方的な恵みの業です。王（人）は可視的あるいは不可視的なこのような神の介入によって助けられているのである。この「救い」の経験に、「御力」、「栄光」、「純金の冠」（参照サムエル下12：30 1キカル34.2キロ!）、「命」、「栄えと輝き」（尊厳と威光）が繋がっています。ヘブライ語名の「ヨシュア」は「ヤハウエは救い」の謂であり、「イエス」も「ヨシュア」のギリシヤ語音訳です。「この子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を救うからである」（マタイ1：21）。ルカ2：11「今日ダビデの町で、…救い主がお生まれになった。」

2. 祝福

祝福 (birkōwt) とは、誰かから、喜ばれること（好意）です。人と神が共にいてくださることで。ローマ8：31参照。人は幸運 (lucky) でも幸福 (happy) でないこともあり、happy でも祝福されていないことがあり、happy でなくとも「祝福されていること」(blessed) があるのです。他者と共に生きることは時に苦しいことであり、人には幸福ではないことを引き寄せることがありえます。しかし、それは「祝福された」人生なのです。ある人の言葉 (TO)：他者、特に社会的に抑圧された貧しい人と共に生きることは「大変」なことです、「幸い」です。

3. 命を得させ

4節は王の即位式を表すのでしょうか？ しかし、王（人）は時には病気になることがあります。人は節制し、気をつけて生きねばなりません、自分の命をコントロールできないのです。「あなたがたのうちだれが、思い悩んだからといって、寿命 (helikia life span 同年輩の、成熟したを意味する処から年齢、寿命、成年、成熟を意味する) をわずかでも延ばすことができようか」（マタイ6：27）。いのちは毎日、瞬間瞬間、神から受け取り、受け取り直していくものです。ただ朝起きて、感謝して受け、夜感謝して委ねるのみです。ふと、瞬間的に、命を奪われることもあるのです。そのような時に、残された家族は大変です。神の代理として油注がれた王の命は神聖不可侵という古代の宗教心 (A. ヴァイザー) があるのかも知れませんが、強調点は命を与える主なる神にあるのでしょうか。「王は主に依り頼む」（8節）その慈しみ（へсед）への信頼です。

4. 王の職務：祝福と敵の制圧？

7節の「授け」は王が授けるのか神が授けるのか、9節以下の「あなた」は神であるのか王であるのか判別しづらいです。王は一方で、民を祝福し、他方で、敵を打ち砕きます。敵の陰謀は決して成功しません。王は固有の賜物、才能を所有する者ではなく、主に「願い求める者、祈る者」なのです。

5. 主よ、立ち上がり給え

14節は「主よ、立ち上がり給え」とも「主よ、ご自身を高く上げ給え」とも翻訳可能です。最後は会衆・民の主なる神への賛美で終わります。